

フタバ産業レポート

FUTABA INDUSTRIAL Report

2020



フタバ産業株式会社

お問い合わせ先

総務部 広報課

〒444-8558 愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地

TEL : 0564-31-2211 FAX : 0564-31-2220

URL : <https://www.futabasangyo.com/>



この報告書には、森林に配慮して適切に管理された森林認証用紙（FSC® 認証用紙）、有害な VOC（揮発性有機化合物）成分が含まれていない non VOC インキ、印刷時に浸し水を使用せず同じく VOC を大幅に低減する水なし印刷が採用されています。

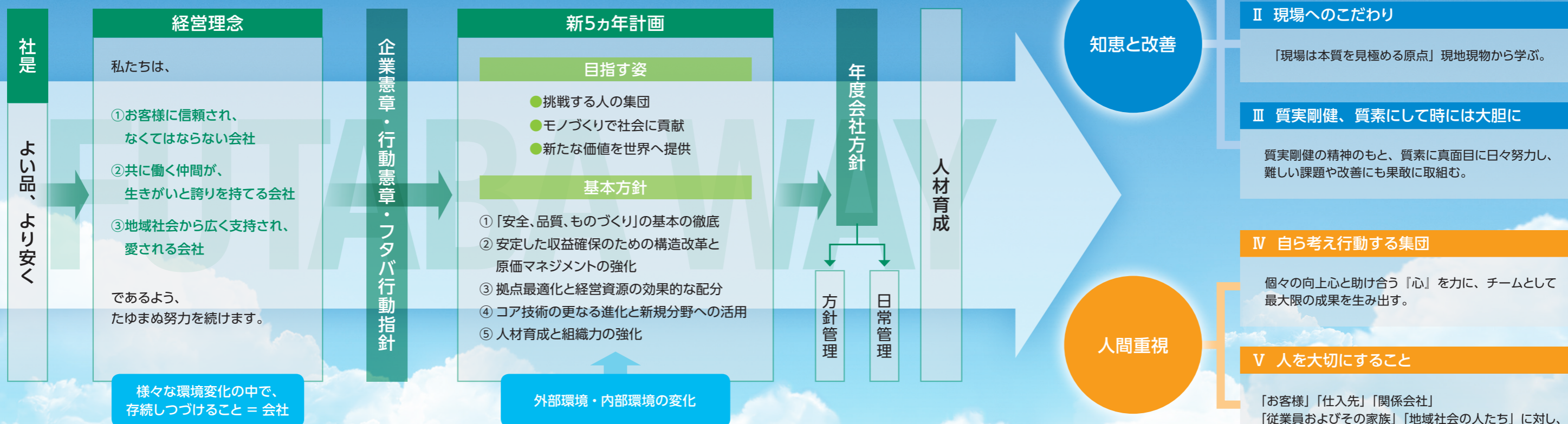
より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています。

お読みいただく皆様へ

今年度より、当社の現状と課題に対する取り組みへの理解をより深めていただくことを目的に、「フタバ産業レポート」を発行しました。従来の「環境・社会報告書」では、環境・社会分野の活動結果に焦点をおいていましたが、今回より、財務情報も含んだ内容とし、大切なコミュニケーションツールとなるよう作成しています。

THE FUTABA WAY

FUTABA WAY…… フタバの中で受け継がれてきた信念・価値観・誇りを「共通の価値観」と「基本的行動原理」として明文化したものの。



- I 果敢な挑戦**
お客様と、共に働く仲間の喜びの実現に向けて、一丸となってモノづくりに果敢に挑戦する。
- II 現場へのこだわり**
「現場は本質を見極める原点」現地現物から学ぶ。
- III 質実剛健、質素にして時には大胆に**
質実剛健の精神のもと、質素に真面目に日々努力し、難しい課題や改善にも果敢に取り組む。
- IV 自ら考え行動する集団**
個々の向上心と助け合う「心」を力に、チームとして最大限の成果を生み出す。
- V 人を大切にすること**
「お客様」「仕入先」「関係会社」「従業員およびその家族」「地域社会の人たち」に対し、常に同じ気持ちで接し、良い信頼関係を築く。

CONTENTS

THE FUTABA WAY1

トップメッセージ3

企業情報

会社概要・財務ハイライト7

事業内容9

フタバグループ拠点10

SDGsへの取り組み11

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス13

コンプライアンス15

リスク管理16

環境活動報告

環境マネジメント17

製品軽量化によるCO₂排出量の低減18

生産活動におけるCO₂排出量の低減19

環境リスク低減と生物多様性保全活動21

廃棄物削減・省資源の取り組み22

社会活動報告

お客様との関わり23

株主・投資家の皆様との関わり24

仕入先様との関わり25

地域社会との関わり26

従業員との関わり27

財務サマリー（連結）29

対象期間 2019年4月1日から2020年3月31日 *一部対象期間外の活動も紹介しています。

対象範囲 フタバ産業株式会社 *一部グループ会社の活動も紹介しています。

発行 2020年9月（次回2021年9月予定）

将来の見通しに関する記述についての注意点

本レポートには、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しが含まれています。これらの記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した内容であり、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、環境の変化により、本レポートに記載している予想や将来に関する記述と異なる可能性があります。

“選ばれる企業、 勝ち残る企業”を 目指して。

代表取締役社長

吉貴 寛良

〈2019年度を振り返って〉

今までの取り組みにより増収増益

2019年度は、フタバグループの主要取引先自動車メーカーが、北米・欧州・中国で販売台数を減らしている中、増収増益となりました。特に、売上の伸びに比べて利益面の改善が著しく、感慨もひとしおです。2016年に「新5ヵ年計画」を策定し、生産現場を中心に取り組んできた品質の向上と、業務の効率化が次第に実を結びつつあるのだと思います。

ただ、地域差は出ており、アジア（中国含む）では売上および利益とも2ケタ台の伸びを示しました。日本では減収増益、厳しい状況が続いていた欧州も減収ではありますが、どうにか黒字化を達成しました。

売上では比重の高い北米ですが、お客様の大きなモデルチェンジとそれに伴う生産準備費用の増加、原価改善活動の遅れなどの理由から、売上、利益とも前年を下回りました。

コロナ禍からの回復

年初からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、自動車メーカーだけでなくフタバグループでも工場の稼働停止を余儀なくされ、サプライチェーンにも混乱が見られました。中国は今年に入って工場閉鎖があり、稼働率が落ちていました

		2020年3月期	2019年3月期	対前期比	
		通期実績	通期実績	増減	増減率
日本	売上高	2,642	2,661	△19	△0.7%
	営業利益	51	26	+24	+89.7%
北米	売上高	1,004	1,052	△47	△4.5%
	営業利益	15	23	△7	△31.6%
欧州	売上高	292	333	△41	△12.4%
	営業利益	7	△9	+16	—
アジア	売上高	991	778	+213	+27.4%
	営業利益	33	29	+4	+14.6%
連結調整	売上高	△168	△208	+39	
	営業利益	△1	△2	+0	
合計	売上高	4,761	4,617	+144	+3.1%
	営業利益	106	67	+38	+56.3%

が、工場が再稼働した4月からは前年を2割ほど上回る勢いです。この数年、中国は“自動車強国”へと舵を切り、国策としてEV車に力を入れてきましたが、最近になってHV車も省エネルギー車として認めるようになりました。日本の自動車メーカーが得意とする技術分野だけに、さらに追い風が期待でき、今期は中国市場が業績挽回のキギになると考えています。

北米市場は、4～5月に工場が稼働停止となりました。広大な国土を持つ北米ではクルマが生活必需品であるため、ディーラーの店頭から

在庫がなくなり、いま自動車メーカーは増産の大量令をかけています。今後は、人員確保と設備能力、材料調達のポイントになりそうです。

〈経営戦略「新5ヵ年計画」の進捗〉

「新5ヵ年計画」への思い

2016年に社長を拝命した際、当時のフタバを見て、3段階の改善が必要だと思いました。

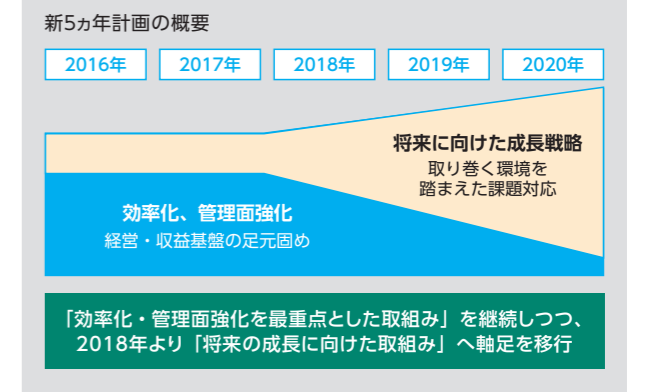
1つめは「止血」です。廃却不良品が積み上がり、残業ばかり増える中、不良が出て計画された生産量を達成していれば問題ないという意識でした。これでは利益は出ません。そのため、“工程内で品質を造り込む”という基本を徹底し、管理指標と目標の再設定を行いました。その結果、廃却不良品を7割ほど減らすことができました。しかし、目標の9割減に向けて、今後もさらに努力が必要です。

2つめは「操業管理」です。急激なグローバル展開により、マネジメントのしくみの構築や人材育成が滞っていました。また、当社の製品の多くは、受注時に売価が決まっているため、利益を出すには、原価を下げるしかありません。作業に対する基本的な管理（材料、要員、納期）が大切ですが、当社では、日々の管理がうまくできておらず、年度末にまとめて見ないと利益の有無さえ分からない状況で、“日々の積み重ねが業績になる”という基本がおろそかになっていました。そこで、責任権限の明確化やルールの整備、組織の見直しを行いました。また、収益管理体制を再構築しました。これは既にフタバ本体では定着し、現在は国内外の子会社へ展開中です。また、生産現場においては、タブレット端末を活用し、生産実績のタイムリーな“見える化”を進め、日々の分析と改善に活かしました。このしくみは、今後グローバルに展開する予定です。さらに物流の最適化にも取り組んでいます。リードタイムの短縮には、プレス・組立工程だけでは不十分で、構内運搬も重要な要素です。設備、人員、運搬車両、部品ラックをセンサーでつなぎ、さらにIoT*とAI（人工知能）を活用して最適化しようとしています。現在、大学との共同研究でモデルエリアでの効果は検証済みであ

り、今後工場全体への拡大に向け、さらに実用化を進めていく予定です。

3つめは「ビジネスプランニング」です。自動車業界が“100年に1度の大変革期”を迎えており、その変化を先取りした成長戦略とともに、実現するための技術開発力を備えなければなりません。そこで、「BRグローバル事業計画室」を2019年4月に立ち上げました。既存部門から独立し、中長期にわたる受注、開発、生産、販売、そして利益に関する全体計画を統合し、グループの事業計画の全体最適を図るものとなりました。ヒト・モノ・カネといったリソースの投入・活用も計画し、フタバグループの“あるべき姿”（将来の成長と利益）についても追求することとしました。そして、2020年2月に「グローバル事業計画」を策定し、中長期を睨んだ「ビジネスプランニング」のベースができたと思っています。

※IoT (Internet of Things)…モノをインターネットでつないで活用すること



「新5ヵ年計画」最終年度の見通し

「新5ヵ年計画」は当初売上高で4,400億円、営業利益率で3.5%の達成が目標でした。すでに2019年度の売上高は売上目標をクリアしていますが、営業利益率は前年度に比べて0.7ポイント増加したものの、2.2%にとどまっています。コロナ禍が起きる前までは、なんとしてもやりきる決意でしたが、コロナ禍で先を見通すことが難しくなっています。ただ、生産量が回復したあかつきには、“営業利益率3.5%を達成する実力を持った会社になる”という強い決意を持って、取り組んでいきます。

〈将来につながる成長戦略〉

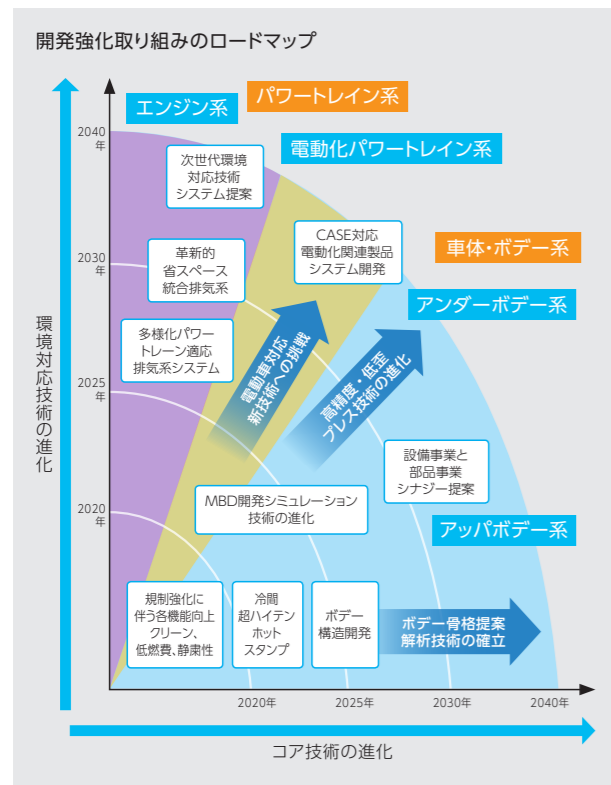
「新5ヵ年計画」は、「安全、品質、ものづくり」の基本を徹底し、構造改革と原価マネジメントの強化による収益の確保からスタートしました。ただし、この計画の本丸は将来に向けた「成長戦略」でなければなりません。

フタバグループの売上比率は、すでに国内と海外でほぼ互角のところまで来ています。しかし、グローバルの視点でスピード感を持って、グループを統括していくことが、実行できていませんでした。

今後は国内だけでなく、海外拠点においても部品事業の最適化と利益の最大化に努めるとともに、開発中の次世代技術とボデー系商品のビジネスモデル構築に向けた体制づくりを進め、開発・提案力の強化を本格化していきます。

いま世界的な動きとして電動車の開発が急務となっています。フタバグループにおいては ①排ガスのクリーン化に貢献する排気系部品の開発強化 ②消音、熱マネジメント、薄板溶接などのコア技術を活かした新商品の開発 ③企画・開発組織とMBD^{*}、IT活用の強化を推し進めています。

※MBD (Model Based Development) …モデルベース開発と呼ばれるコンピュータを用いた仮想試作・試験を活用したシミュレーション解析による開発



〈世界共通の課題としてSDGs^{*}を推進〉

企業が世の中に認めてもらうためには、利益を出すことだけでは不十分であり、ステークホルダーを意識した戦略が必要です。SDGsの中にある様々なメッセージをフタバグループの戦略に織り込んでいき、それをステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールにしていきたいと思っています。

そこで、2020年1月、SDGsに取り組む専門組織として「企業行動推進室」を立ち上げ、一方で、取締役会メンバー全員の参加による「企業価値向上・SDGs推進会議」を新設しました。

当社の事業活動をどのようにSDGsとマッチングさせていくか、それをSDGsの観点から全業務の洗い出しと紐づけを行い、方向性のたたき台が出来上がってきたところです。今後、非財務情報を含めた独自のKPI^{*}の設定を行い、重要テーマの経営への統合と中期計画など事業方針への反映を目指していきます。

※SDGs(Sustainable Development Goals) …持続可能な開発目標
※KPI (Key Performance Indicator)…重要経営指標

〈ESG^{*}のさらなる推進〉

企業統治の強化

フタバグループでは、本業である排気系部品で環境と社会に貢献してきました。さらにガバナンスにおいては、「FUTABA業務品質管理標準」を策定し、業務品質のさらなる向上によるリスク管理の強化を目指すとともに、グループ全体の役割責任の整理を進めています。

最近の動きとしては、女性の社外取締役を充実させ、社外取締役を主な構成員とする任意の「報酬委員会」「指名委員会」を設ける等、企業統治の透明性を高め、健全な経営体制づくりに努めています。

※ESG…環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の3つの頭文字から取った言葉

“新しい日常”での働き方

企業と従業員の関係は、互いの信頼がベースになければなりません。

いま、さまざまな企業で働き方改革が叫ばれていますが、アメリカで生活したことのある私の



経験を少しお話しします。アメリカではほとんどの社員が定時で帰宅しますが、残業が少ないからといって怠けているわけではありません。彼らは与えられた仕事・役割は一生懸命にがんばります。日本と違い、時間ではなく、成果物で評価される仕組みができています。いつまでに何をすることが明確なため、時間の使い方だけでなく、リソースの管理もきっちりしています。

この経験から“新しい日常”の下で、何か新しいものが出てくるというよりも、仕事の基本である「期待される成果物・納期の明確化と、それにかかわるリソースを明確化する」ことについて、原点に立ち返ってしっかりと確立していくことだと考えています。また、会社も従業員一人ひとりの働きに向きあい、正しく評価する力が試されています。

〈全てのステークホルダーの皆様へ〉

自動車業界は100年に1度の大変革期の真っただ中にあります。「CASE^{*}」と言われる新たな概念の提案や、コロナ禍によるパーソナルモビリティへの見直しも出てきています。そのような社

会情勢のなか、フタバグループとしては、我々の持っている技術でお客様を支えていける会社にならなければなりません。先ほどのSDGsやESGともかかわることですが、「安全・環境」等いま社会が求める課題解決に私たちがどれだけ真摯に取り組み、具体的な成果に落とせるかが、「選ばれる会社、勝ち抜く会社」になるために問われています。当社が社会の持続的な成長に貢献し、「いい会社だね。応援しよう。」と思ってもらえる会社になるよう全員が力を合わせて取り組んでいきます。

フタバグループは、モノづくりの基本を徹底し、品質の確保に努めるとともに、さらなる構造改革、モノづくり改革を推し進め、社会課題に立ち向かおうとしています。まさに“挑戦と改革”こそが、フタバグループの原動力であり、成長に向けた推進力になると思います。

これからもステークホルダーの皆様から末永く愛され、頼りにされる企業グループを目指してまいります。引き続き、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

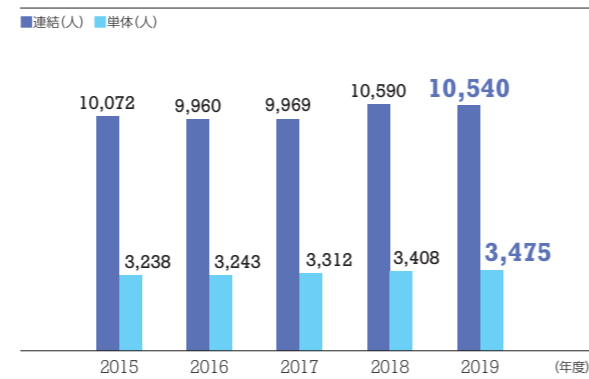
※CASE…Connected (接続性)、Autonomous (自動運転)、Shared (共有)、Electric (電動化) の4つの頭文字から取った言葉

会社概要・財務ハイライト

会社概要 (2020年3月31日現在)

会社名 フタバ産業株式会社
設立 1935年 3月25日
創立 1945年11月 1日
資本金 168億2,016万円
本社所在地 愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地
代表者 代表取締役社長 吉貴 寛良
事業内容 自動車等車両部品、情報環境機器部品、治具溶接機の製造販売およびハウス栽培用CO₂貯留・供給装置の製造
関係会社 国内子会社：4社
 国内関連会社：1社
 海外子会社：18社
 海外関連会社：2社
従業員数 単独 3,475名／連結 10,540名

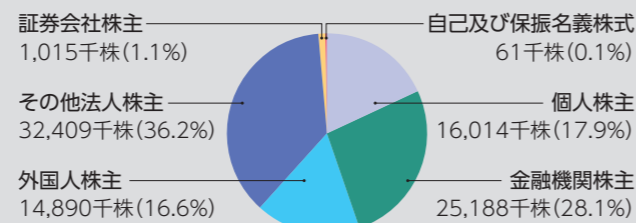
従業員数推移



株式状況 (2020年3月31日現在)

発行可能株式総数 200,000,000株
発行済株式の総数 89,580,827株
 (自己株式61,739株を含む)
単元株式数 100株
上場証券取引所 東京および名古屋証券取引所
 (証券コード: 7241)
株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社

所有者別持株比率



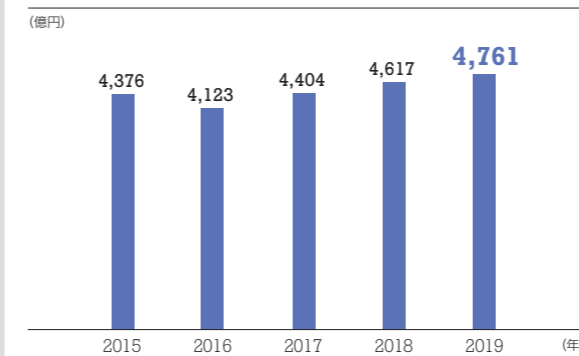
大株主の状況 (上位10名)

大株主の氏名または名称	持株数(千株)	持株比率(%)
トヨタ自動車株式会社	28,116	31.4
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,861	5.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,878	4.3
株式会社三井住友銀行	3,063	3.4
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	2,919	3.2
フタバ協力会持株会	2,883	3.2
株式会社三菱UFJ銀行	1,290	1.4
フタバ従業員持株会	1,184	1.3
三井住友信託銀行株式会社	1,162	1.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,130	1.2

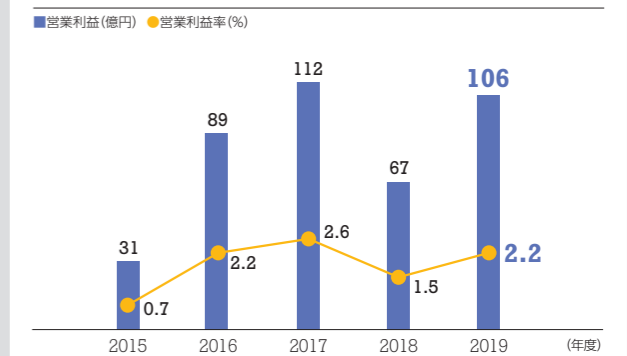
※持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

連結主要データグラフ

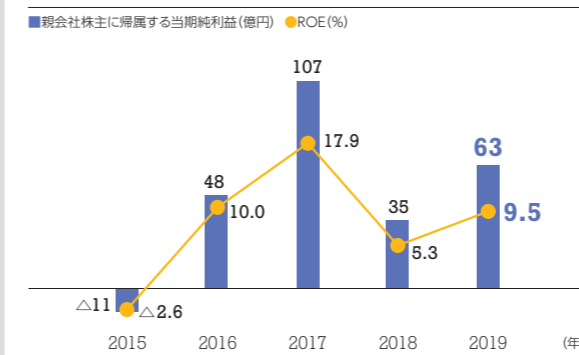
売上高



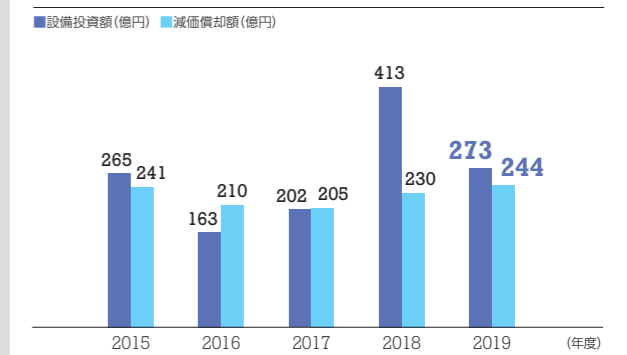
営業利益・営業利益率



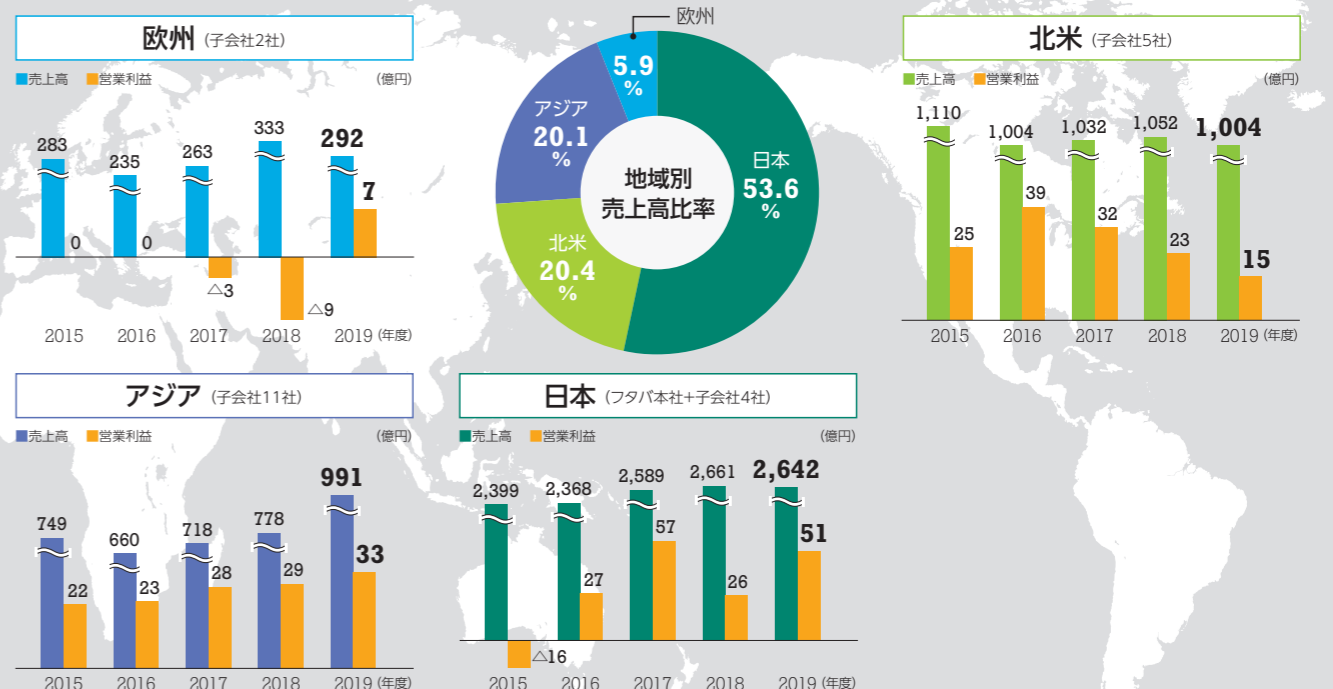
親会社株主に帰属する当期純利益・ROE



設備投資額・減価償却額



地域別売上高・営業利益



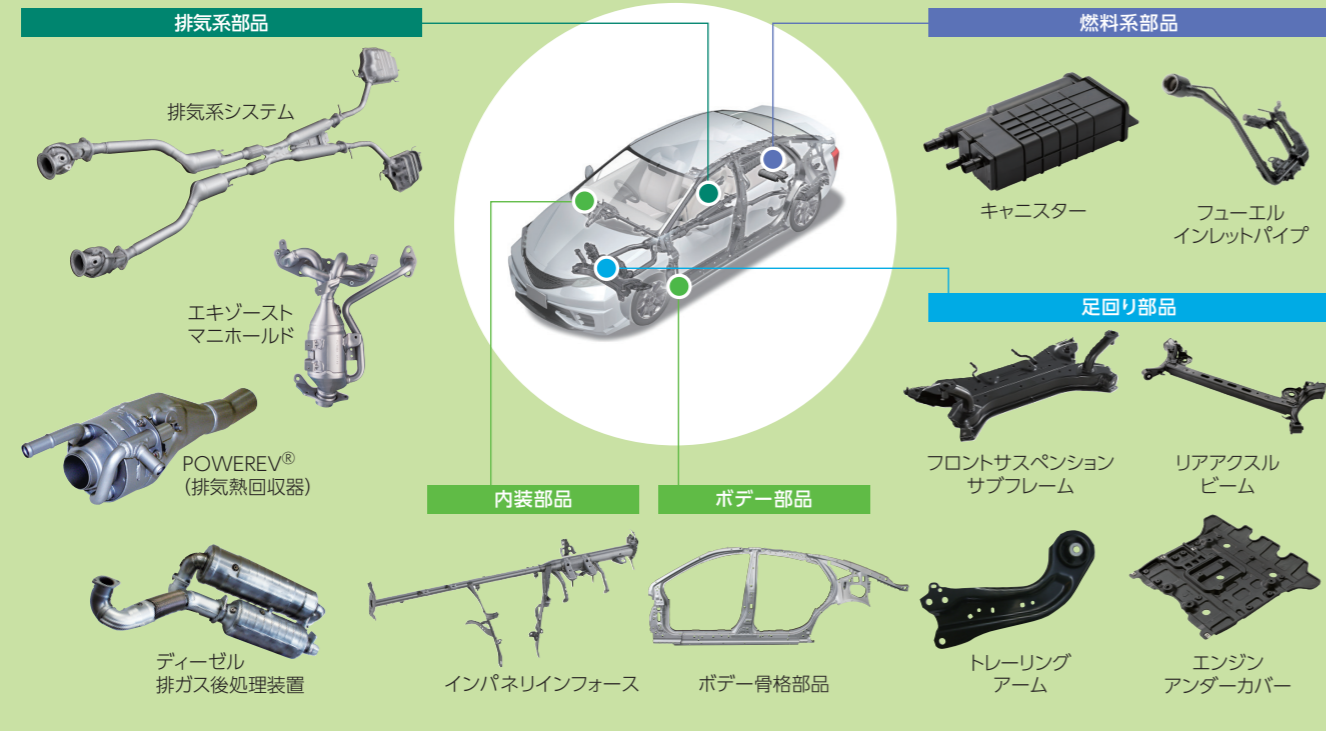
事業内容

当社グループは、自動車部品、情報環境機器部品および外販設備等の製造販売を主要な事業内容としています。

製品別売上高比率



自動車部品事業



情報環境機器部品/外販設備事業

- 情報環境機器部品：複写機・複合機、プリンター、デジタル印刷機等の用紙搬送ユニットおよび精密部品
- 外販設備事業：自動車メーカー向け組立溶接設備

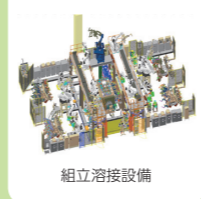
情報環境機器事業

自動車部品製造で培ったプレス・溶接技術と精密な組立技術により、カラー複合機等の部品を生産しています。設計・開発・生産・納入までの一貫した体制による高付加価値のものづくりに努めています。



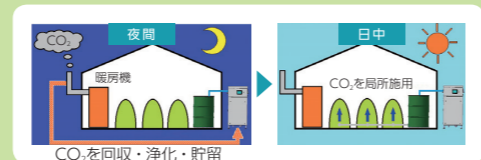
外販設備事業

外販設備事業として、国内外の自動車完成工場に向けて、溶接組立ラインを製作しています。デジタル技術・シミュレーション等最新の技術を駆使して、営業活動～構想検討～設計製作～トライ調整まで一貫で設備づくりを行っています。



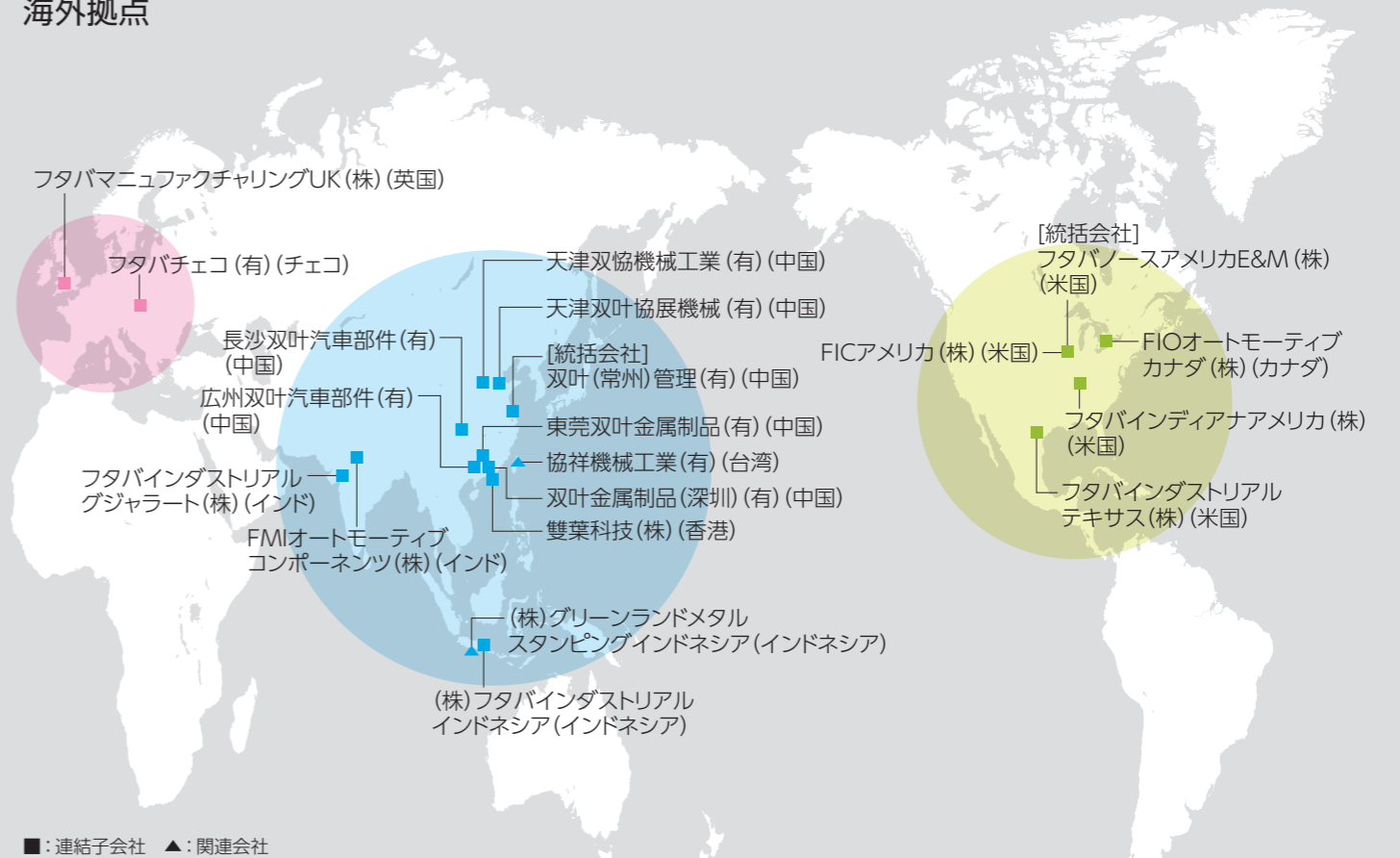
農業事業 aleaf® (アグリーフ)

自動車業界で培ったコア技術（排ガス浄化、ガス吸着、熱マネージメント）を応用し、排気ガスを浄化、CO₂を貯留・供給する装置「aleaf® (アグリーフ)」を開発し、販売しています。

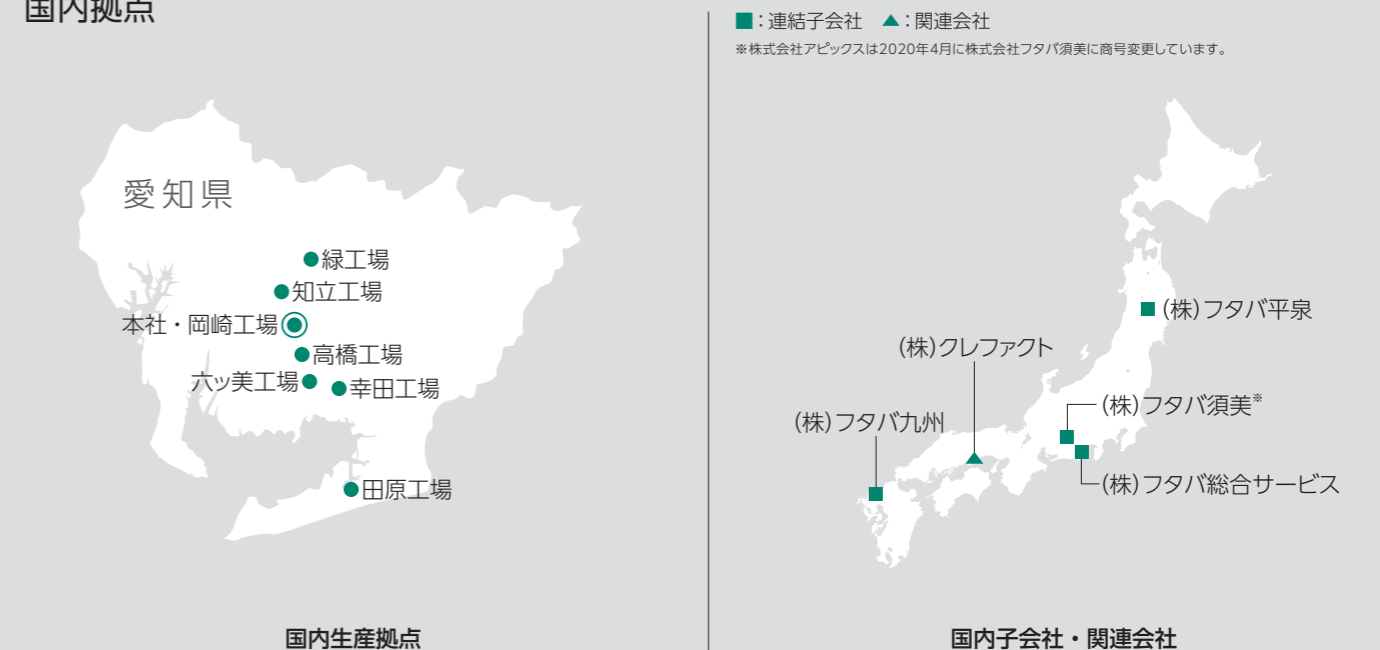


フタバグループ拠点 (2020年3月31日時点)

海外拠点



国内拠点



SDGsへの取り組み

1 ESGとSDGs

これまでの取り組み

当社は社是・経営理念のもと、CSR(企業の社会的責任)やESG(環境・社会・ガバナンス)に取り組んできました。主力事業である自動車部品事業では、環境にやさしい排気系システム製品の開発、ボデー部品の軽量化による燃費向上で自動車のCO₂排出量削減に貢献しています。また、こうした事業活動に加え、法令の遵守、経営の透明性の確保、様々な地域行事への参加等に、積極的に取り組んでいます。

今後の取り組み

国際社会の共通目標である「SDGs(持続可能な開発目標)」が目指す「持続可能な社会の実現」に向けて、当社も事業活動を通じて取り組み、SDGsが掲げる環境問題や社会課題の解決に貢献していきます。SDGsに賛同される株主をはじめとしたステークホルダーの皆様からの期待に応え、さらに活動を推進する中で当社の企業価値向上と持続可能な成長をはかりたいと考えます。

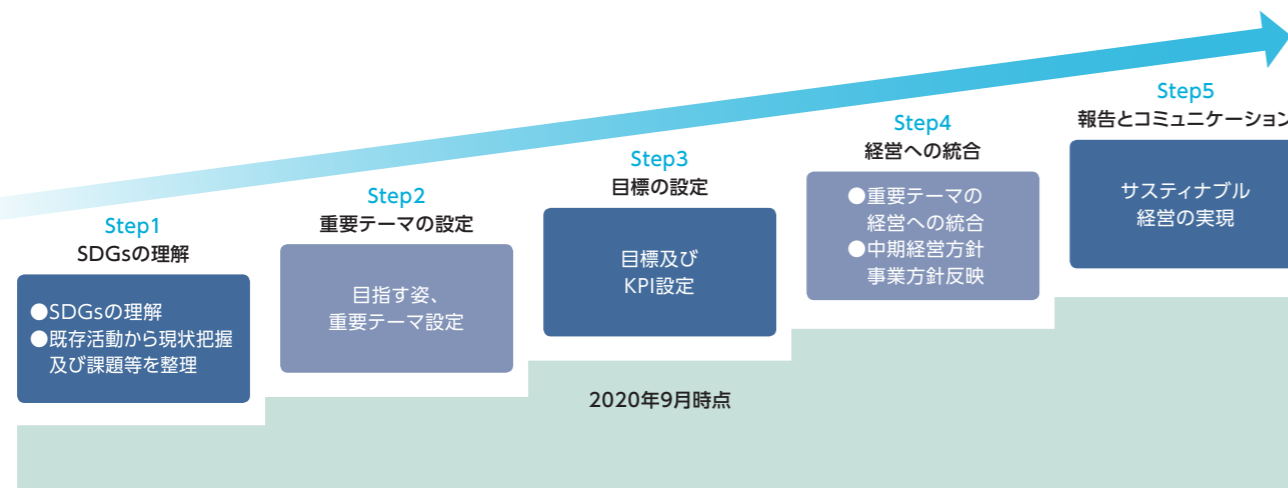
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは…
「Sustainable Development Goals」の略で、「持続可能な開発目標」と訳されます。2015年に国連で採択され、持続可能な社会の実現を2030年までに達成するため、世界共通の17の目標(ゴール)と169のターゲットが設定されました。

2 SDGsの取り組みステップ

SDG Compassに準じた取り組み

当社のSDGsの取り組みは、SDGs導入における企業の行動指針であるSDG Compassの5ステップをベースに推進しています。まずは当社の事業活動を洗い出して再把握、SDGsの観点から整理を行い、そしてESGとの関連性も明確にしました。その上で当社にとって、最優先に取り組むSDGsのゴールを選定しました。今後、優先して取り組む重要テーマ(マテリアリティ)の選定と目標およびKPIを設定、会社方針への反映などを行い経営との統合をはかります。

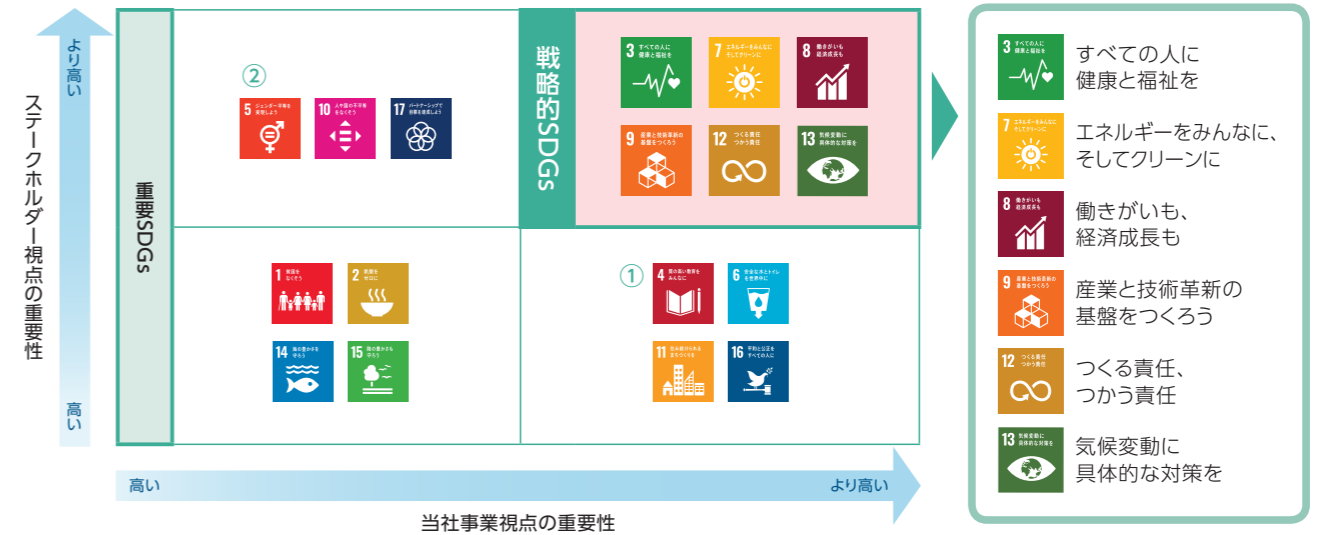


3 重要性のより高いSDGsのゴール

戦略的SDGsの選定プロセス

当社事業視点の重要性とステークホルダー視点の重要性をそれぞれ分析し、分析結果から「会社」と「社会」にとって最優先に取り組むSDGsのゴールを選定し、「戦略的SDGs」と位置付けました。当社はそれらのゴール達成に向けグループ・グローバルで取り組んでいきます。それ以外のゴールは「重要SDGs」と位置付け、関連する活動を通じて引き続き取り組んでいきます。

●重要性マトリクス



①当社事業視点で重要性のより高いSDGs

当社のこれまでの事業活動を把握・整理し、事業への影響度や関連性の高いSDGsを選定しています。

②ステークホルダー視点で重要性のより高いSDGs

ESG評価機関の要請をもとに、市場および社会トレンドを分析し、ステークホルダーが当社に特に期待するSDGsを選定しています。

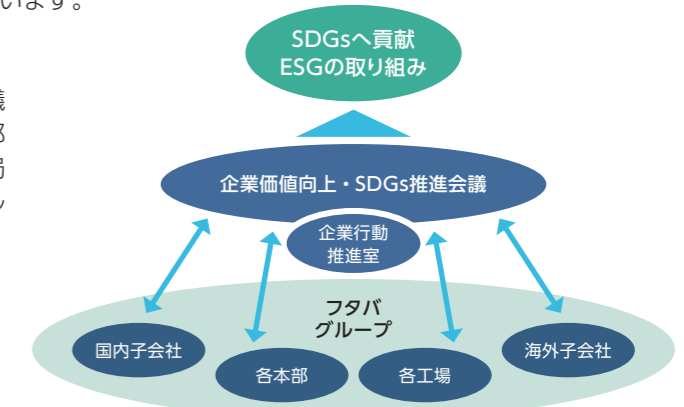
4 SDGsの取り組み推進体制

企業価値向上・SDGs推進会議の設置

活動推進のため、2020年1月に企業行動推進室を新たに立ち上げ、取締役会メンバー全員の参加による「企業価値向上・SDGs推進会議」を新設し、活動の方向付けや進捗状況のフォローアップ等を行っています。同推進会議は四半期に一度開催し、2020年度は4月と7月に開催しています。

今後の推進体制について

「企業価値向上・SDGs推進会議」の決定事項や審議内容等は、同活動をリードする企業行動推進室から各部門へ落とし込んでいきます。今後は企業行動推進室を事務局とした部門横断的な連携体制を、グループ・グローバル展開も視野に入れ確立していきます。



コーポレート・ガバナンス

当社は持続的な成長と企業価値向上を実現するために
より良いコーポレート・ガバナンスの構築を目指します。

基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスの目的を「健全で強い企業を作るために、企業内外の多様なステークホルダーの視点から経営者を規律づけること」ととらえています。法令や社会的規範を遵守した事業活動の遂行と経営の透明性の向上を確保するため、コーポレート・ガバナンス

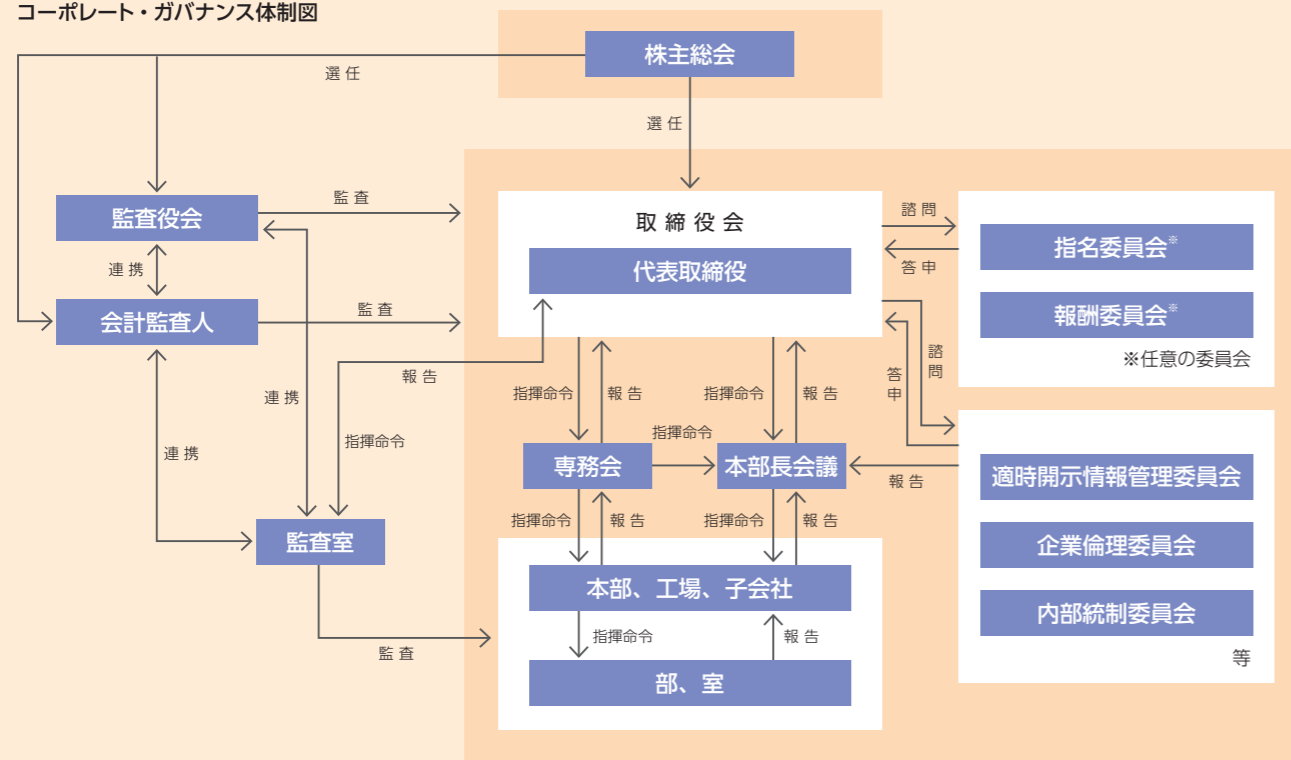
が有効に機能する組織体制の構築・改善が重要であると認識しており、①経営のスピード化・戦略性の向上 ②企業行動の透明性の確保 ③ディスクロージャーとアカウントビリティの充実 を重点に引続き体制の整備・充実に努めていきます。

推進体制

当社は、業務執行等の最高決定機関である取締役会を毎月1回開催するとともに、必要に応じて臨時取締役会を開催しています。法定事項および重要事項を付議し、また経営戦略の決定、業務執行の監督を行っています。また、業務執行にあたっては、任意の機関として専務会を設置し「経営のスピード化・戦略性の向上」に努めていま

す。専務会は毎月1回開催し、会社の方向性および経営に関する極めて重要な議案を審議・決議しています。その他、本部長会議を毎月2回開催し、取締役会上程事項とその他重要事項や個別案件を協議することにより、的確かつ迅速な経営判断ができる体制を構築しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制システムに関する基本的な考え方

当社の内部統制に対する基本的な姿勢は、業務を適正に遂行するため、取締役自らが率先垂範して法令および企業倫理を遵守し、取締役の言動を通じて社員への浸透をはかることです。また、業務の執行に際しては、問題発

見と改善の仕組みを業務執行プロセスに組み込むとともに、それを実践する人材育成と組織づくりに取り組んでいます。

経営陣幹部・取締役の選解任と監査役の選任

取締役会が、取締役・執行役員の選解任・指名を行うにあたっては、的確かつ迅速な意思決定ができるよう、能力・経験・専門性のバランス、多様性、適材適所の観点を重視しています。2018年12月に取締役会の諮問機関として、独立社外取締役を主要な構成員とする任意の「指名委員会」を設置しました。取締役会は、指名委員会

からの答申を受け、取締役・執行役員の選解任・指名を決定しています。2019年の株主総会から、取締役の選解任・指名案に反映しています。監査役の選任については、監査役会の決議を得て決定しています。取締役会は、当該監査役会の決議をもって監査役会の同意を得たとし、株主総会に監査役選任議案を提出しています。

社外取締役・社外監査役

当社では、専門分野はもとより、外部からの視点により取締役会の意思決定に適正性を確保するための助言、

提言をいただくために、社外取締役3名、社外監査役3名を選任しています。

社外役員と主な選任の理由

氏名	役職	独立役員	主な選任の理由
堀江 正樹	社外取締役	○	公認会計士として長年培われた専門的な知識、経験に加え、当社において2015年より社外監査役、社外取締役を歴任し、その豊富な経験と高い見識を当社の経営に反映するため。
市川 昌好	社外取締役	○	豊田合成株式会社における長年の経営者としての経験に加え、その豊富な経験と高い見識を当社の経営に反映するため。
宮島 元子	社外取締役	○	弁護士として長年培われた専門的な知識と経験に加え、その豊富な経験と高い見識を当社の経営に反映するため。
磯部 利行	社外監査役		トヨタ自動車株式会社における生産技術領域に係る専門知識、経営者としての経験に加え、その豊富な経験と高い見識を当社の監査に反映するため。
鈴木 人史	社外監査役	○	公認会計士として長年培われた専門的な知識・経験等に加え、その豊富な経験と高い見識を当社の監査に反映するため。
板倉 龍介	社外監査役	○	株式会社三井住友銀行において長年培われた財務に関する知識と経営者としての経験を有しています。当社の主要取引先の業務執行者でしたが、退任後10年経過しており、取引所規則に定める独立性基準に抵触しておらず、公正・中立な立場で監査活動を実施できると考えたため。

経営陣幹部・取締役の報酬

取締役（社外取締役を除く）・執行役員の報酬は、月額報酬・賞与・譲渡制限付株式報酬により構成しています。月額報酬は固定報酬であり、賞与は会社業績との連動性を確保し、職責や成果を反映します。譲渡制限付株式報酬制度は、当社の企業価値の持続的な向上と株主との一層の価値共有を進めるためのインセンティブとして2019

年度から導入しました。また、2018年12月に取締役会の諮問機関として、独立社外取締役を主要な構成員とする任意の「報酬委員会」を設置しました。取締役会は、取締役・執行役員の報酬を報酬委員会からの答申を受け、決定しています。2019年株主総会から、取締役の報酬提案に反映しています。

取締役会の実効性評価

当社取締役会は、社外取締役および監査役に対するアンケート等の評価を参考にして、取締役会が実効的にその役割・責務を果たしているか否かについての分析・評価を行い、必要に応じて改善を行っています。2019年度はアンケートで抽出された要望・問題点を改善するため

に、中長期目線・グローバル目線での議論の拡充の一環として、社外取締役の各部門業務確認会の頻度・対象部門の拡充を実施しました。また、役員に対する教育を目的として、研修会での法令セミナーを開催しました。

コンプライアンス

法令や社会的規範を遵守した事業活動の実施を推進しています。

基本的な考え方

当社におけるコンプライアンスとは「法令遵守はもとより、社会の構成員たる企業人として求められる価値観・倫理観によって誠実に行動すること、それを通して公正かつ適切な経営を実現し、市民社会との調和をはかり、企業を創造的に発展させていくこと。環境問題を重視し、自らが行動を起こし、環境の保全に努めること。」と定め、

企業の社会的責任と公共的使命を自覚し、高い倫理観を持って企業活動を行い、社会的責任を果たします。また、国内外の文化・習慣を尊重し、環境保全に努め、地域とともに成長し、地域に喜ばれる企業であるよう様々な活動を展開していきます。

推進体制

当社では、CRO（Chief Riskmanagement Officer）を委員長として、社長、本部長、常勤監査役および委員会で委員として適当と判断された者で構成される企業倫理委員会を原則年3回開催し、経営理念、企業憲章、行動

憲章を周知徹底し、コンプライアンス向上をはかるとともに、企業倫理およびコンプライアンスに関する重要事項の審議と方針の決定を行っています。

教育・啓発活動

当社では、資格や役職に応じて必要な法律知識等の研修を実施し、コンプライアンスの意識向上をはかっています。また、本体（各課単位）と国内・海外子会社に対し、12項目のコンプライアンス自主点検活動を年1回実施し、集計結果を展開し、自主改善活動につなげるよう働きかけています。



新入社員教育

コンプライアンス教育事例

教育名	対象者	概要	実施回数
法令セミナー	役員	法改正情報について等	年3回
内部統制教育	新任職制	コンプライアンス全般	年1回
個別テーマ教育	従業員	独立禁止法等の各種法令	年1回

ヘルプラインの設置

当社では、早期のリスク把握、解決のために、匿名でも通報や相談ができる「フタバヘルプライン」窓口を社内を設置しています。また、社外の弁護士事務所にもヘルプライン窓口を設置しています。この通報制度はグループ全従業員へ配布している行動指針カードへの掲載や社内報等で周知・浸透をはかっています。海外子会社についても本制度を利用できるほか、各国においても相談窓

口を設置し対応しています。寄せられた通報、相談については、専門部署と連携して事実関係を確認し、迅速な問題解決に努めています。なお、相談者が不利益な対応を受けることがないよう、「内部通報規程」を定め、社内に周知しています。

また、2020年度から本制度の利用対象範囲を取引先様にも拡大し、窓口強化をはかっています。

リスク管理

事業活動に大きな影響を与え得る要因をリスクと捉え、未然防止および早期復旧につなげるため、全社でリスク低減活動に取り組んでいます。

BCP

基本的な考え方

当社では、震災リスクを中心とした、事業の継続に影響を与えるリスクに注目し、「①人命第一」、「②被災地の早期復旧」、「③自社業務および生産の早期復旧」を基本方針として、2013年に事業継続計画（BCP）を策定し、BCP活動に取り組んでいます。当初は、大規模地震発生

対策を中心とした東海地震対策委員会を設置して活動をしていましたが、大規模地震以外のリスクや生産復旧段階も重点的に対策するため、現在は、BCP対策会議と名称を改め、活動を推進しています。

取り組み事例

リスク発生時の対応

当社では、リスクが発生した際、事業の継続に影響があり、かつ一定の基準に該当した場合、対策本部を設置し、各種マニュアルに従って初動対応、生産復旧対応にあたります。リスク発生時を想定した訓練として、事業所ごとに机上訓練を実施し、対応レベルの向上に取り組んでいます。



机上訓練（本社）



机上訓練（各工場）

地震発生を想定した訓練

当社では、毎年9月に全社一斉の防災訓練のなかで各種訓練を実施し、大規模地震発生時の対応力向上をはかるとともに、防災への意識向上活動を推進しています。



避難訓練（緑工場）



避難訓練（岡崎工場）

機密管理、情報セキュリティ

基本的な考え方

当社では、お客様や取引先様からお預かりした情報を含むすべての情報を重要な情報資産と捉え、役職員および当社の業務に携わるすべてのものに対し、情報管理の重要性と責任を自覚させることを目的に、各種活動を推進しています。



持ち物点検の様子

取り組み事例

機密管理強化月間（啓発・持ち物点検）

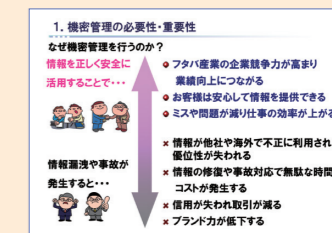
毎年5月と10月を機密管理強化月間に設定し、職場での啓発、意識調査、持ち物点検等によって、従業員の機密管理意識の向上をはかっています。

訓練・教育

2019年2月に標的型攻撃メール訓練を実施し、疑似URLをクリックした従業員に対し、標的型攻撃メール対策についての研修を実施しました。また、2019年10月に、間接部門の一般社員と製造部門の職制を対象にeラーニングを実施しました。



機密管理強化月間ポスター



e-ラーニングの実施

環境マネジメント

持続可能な社会の実現に貢献するため、環境保全活動を推進しています。

環境方針（抜粋）

環境理念（2010年11月1日改訂）

7工場（自動車部品の生産、情報環境機器部品の生産、外販用設備・金型の製作）は、環境保全を地球規模の重要課題との認識に基づき、環境経営を事業活動の根幹にして地球環境の保全に積極的に寄与する。このため、環境マネジメントシステムを事業活動の重要基盤の一つと定め、事業活動により環境に影響を与える項目に関して継続的改善を実施し、地域社会との調和を図る。

環境マネジメントシステム

公害防止、廃棄物、省エネ、資源保護の4つの分科会を主体として、全工場横断的な改善活動に取り組んでいます。今後も環境マネジメントシステムを活用し、さらなる向上に努めていきます。

環境教育

ISO事務局および部署長に対し、社外講師による教育を随時実施し、レベルアップに努めています。

環境関連法規制遵守状況

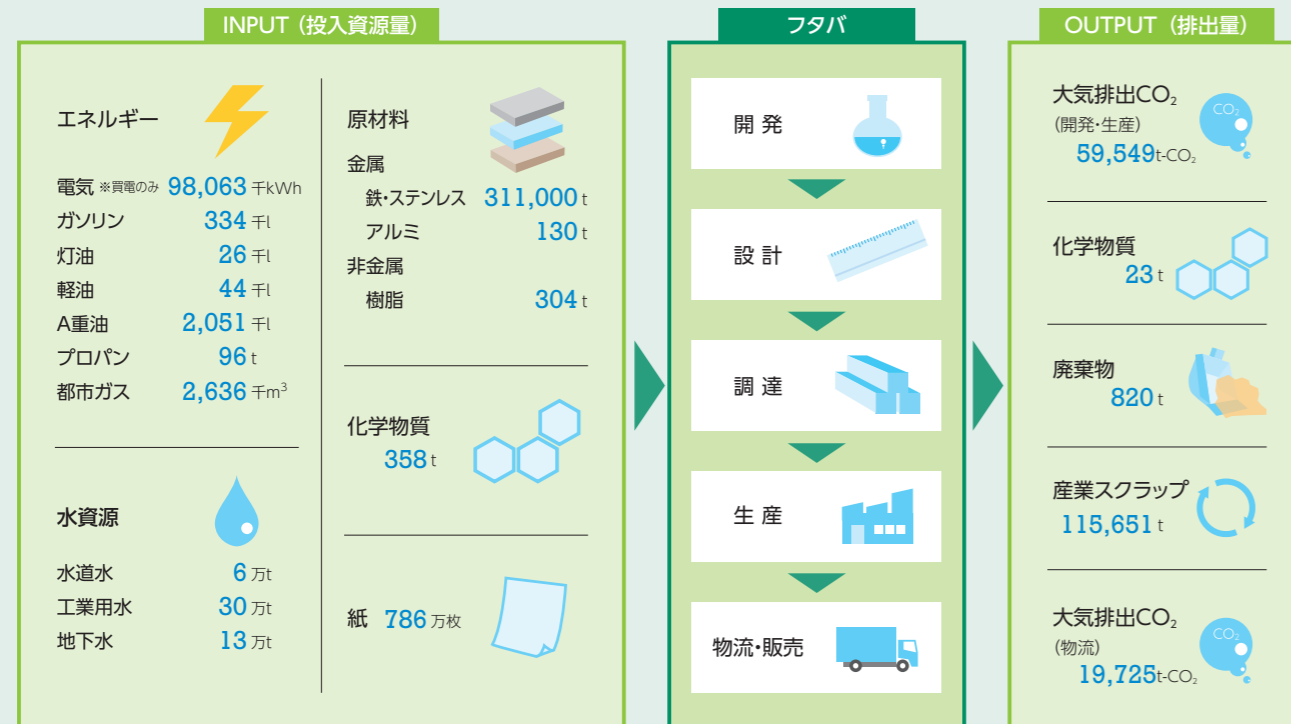
ISO14001の活動の一環で、公害防止分科会が主体となり、協定よりも厳しい自主基準を設け、遵守状況を定期的に確認しています。

環境苦情と対応状況

当社では、生産活動で発生する騒音レベルを法令および協定よりも厳しい自主基準値を設け管理しています。

事業活動における投入資源と排出物（2019年度）

事業活動に必要なエネルギー等の投入量およびCO₂や廃棄物の排出量の全容を把握し、環境負荷物質の削減に取り組んでいます。



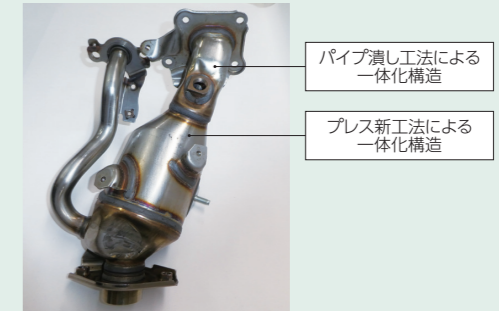
製品軽量化によるCO₂排出量の低減

燃費向上によるCO₂排出量低減のため、製品の軽量化を進めるとともに、次世代モビリティ開発等、将来の成長に向け取り組んでいます。

軽量化に貢献するエキゾーストマニホールド*の開発

設計面において、解析技術を活用し、製品形状や板厚の最適化を行いました。生産面において、プレス新工法により一体化構造にすることで構成部品点数の20%削減および溶接長の35%削減を実現するとともに、グローバルで安定した品質の確保を可能にしました。当製品は、トヨタ自動車株式会社の新型ヤリスから搭載されています。

※エキゾーストマニホールド… エンジンから出されるガスの整流化や浄化等の役目をもつ排気系部品



エキゾーストマニホールド

効果 製品質量10%低減

可変バルブ採用による軽量排気系システム*

マフラー内部に可変バルブを採用することで構造の簡素化と小型化を実現し、さらに解析による形状最適化で部品の薄板化を実現しました。これにより高い消音性能と軽量化を両立させ、燃費向上に貢献しています。当製品は、トヨタ自動車株式会社の欧州生産の新型ヤリスに搭載され、今後の車種にも流用予定です。

※排気系システム… 自動車のエンジンで発生する騒音の低減や燃焼ガスの浄化の他に、排気圧力の最適化により、動力性能を向上させる多機能部品



排気系システム

効果 製品質量10%低減

冷間超ハイテン材を用いた工法開発の取り組み

高張力鋼板を用いた薄板化や補強部品の廃止により軽量化を推進し、自動車の燃費向上およびCO₂排出量低減に取り組んでいます。量産技術として、1470MPa級ホットスタンプ材を用いた技術や冷間1180MPa材の生産技術があります。当社では、成形性等のものづくりに対してより技術課題は高くなりますが、加工時のCO₂排出量低減効果の大きい、1470MPa冷間超ハイテン材を用いた開発に取り組んでいます。

効果 製品質量10%低減



ボデー骨格部品

トピックス

愛知県研究開発プロジェクト

愛知県が重点的に取り組んでいる研究開発プロジェクト「知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期」に当社と名古屋工業大学等の共同研究テーマが選定されました。当社は、産学官と共同で、愛知県の支援を受けながら将来を見据えた当研究テーマを進め、次世代モビリティ開発や低炭素社会実現に貢献していく計画です。

テーマ名 「GaNパワーデバイスの高性能と高機能電源回路の開発」
概要 電気自動車に欠かせないGaN結晶の研磨技術とGaNパワー半導体を用いた高効率電力変換装置の開発

生産活動におけるCO₂排出量の低減

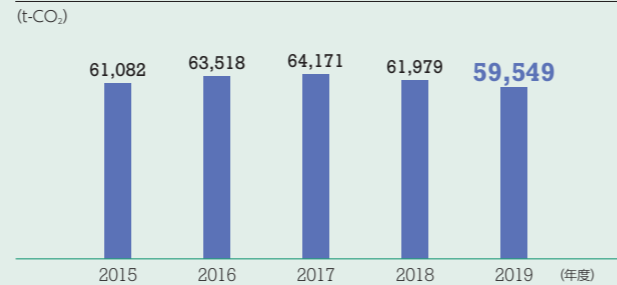
生産技術から製造現場まで、省エネルギー活動の推進を積極的に取り組んでいます。

CO₂排出量低減活動の推進

当社では、全工場横断的な省エネ活動の推進を実施しています。また、工場毎のエネルギー使用実績を把握し、省エネ法[※]の定める年1%以上のエネルギー原単位の低減に取り組んでいます。

※省エネ法…「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の略称

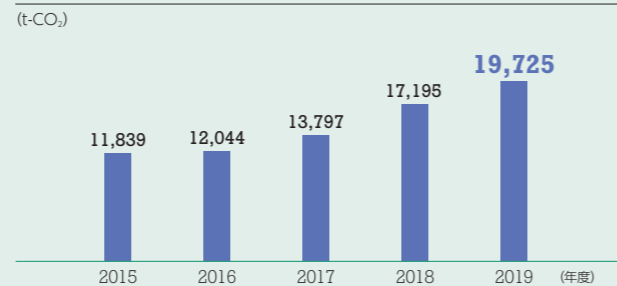
CO₂排出量



物流におけるCO₂排出量の低減

当社では、遠隔地への工場間輸送の増加に対し、物流ルートの合理化およびフルトレーラーの導入に取り組んでいます。

物流におけるCO₂排出量



【事例1】エネルギーの置換によるレーザー溶接のエネルギー使用量低減を計画

改善前

CO₂(炭酸ガス)レーザー溶接を使用

改善後

ファイバーレーザー溶接に変更 (2020年度~2030年度)

効果 CO₂排出削減量 460t-CO₂/年

【事例2】油圧ポンプのインバーター制御設備標準化による省エネ

インバーターポンプで制御

生産ラインで使用する油圧設備の油圧ポンプをインバーター制御にすることで、サイクル内無負荷時のポンプ回転数を低下させ、省エネを実現しました。さらに、国内外で設備を標準化し、効果を出しています。

効果 CO₂排出削減量 186t-CO₂/年

【事例3】コージェネ冷温水配管の改修 (緑工場)

改善前

2つの空調エリアの空調システムが独立しているため、低負荷時でも2基同時に運転していた

改善後

冷温水配管を接続し、片側の冷温水機のみで2つのエリアの空調が可能となった

効果 CO₂排出削減量 91.6t-CO₂/年

【事例4】洗浄機水切り工程の圧縮エアのフロア変更による省エネ (高橋工場)

改善前

洗浄工程で製品に付着した水分の除去を、コンプレッサーによる圧縮エアの吹付で実施

改善後

水切りエアを熱損失の少ないルーツフロア (5.5Kw) による低圧送風に変更

効果 CO₂排出削減量 15.5t-CO₂/年

トピックス

【2020愛知環境賞 優秀賞】受賞

愛知の環境技術や環境活動のレベルの高さを発信する目的で愛知県が創設した愛知環境賞に、当社のハウス栽培用CO₂貯留・供給装置「agleaf[®](アグリーフ)」が、「優秀賞」を受賞しました。



受賞式の様子



ハウス栽培用CO₂貯留・供給装置「agleaf[®]」



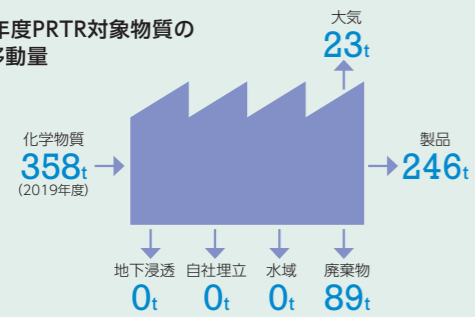
環境リスク低減と生物多様性保全活動

人と自然との共生を目指し、化学物質の管理・低減に取り組むとともに、自然環境を守るための活動を推進しています。

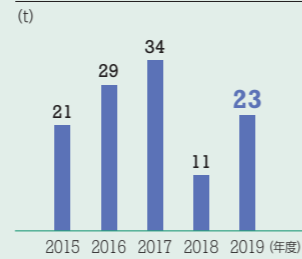
環境負荷物質の低減への取り組み

当社では、化学物質管理システムを活用し、環境負荷物質の使用量・移動量・排出量を管理しています。

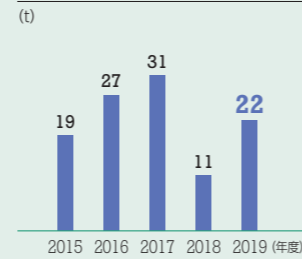
2019年度PRTR対象物質の
排出・移動量



PRTR*対象物質排出量



VOC*排出量



*PRTR (Pollutant Release and Transfer Register)
…有害性が疑われる化学物質の排出量や移動量を把握し、届け出る制度
*VOC (Volatile Organic Compounds)
…光化学オキシダント等を引き起こし、健康被害の原因となる有害物質

トピックス (北米法規制対応キャニスター)

自動車を使用することで発生する環境負荷物質の排出量低減につながる製品づくりを推進しています。

当社は、キャニスター開発において、独自の構造である二層活性炭構造を採用することで、低コストでVOC発生源の蒸発ガスの排出量低減に貢献することができました。日産自動車株式会社の車両へ搭載されています。

*キャニスター…燃料タンクから発生する蒸発ガスを吸着し、クリーンな空気を車外に放出する製品

効果 蒸発ガス排出量20mg以下



キャニスター

生物多様性保全の取り組み

人と自然との共生を目指し、生物多様性保全を推進しています。取り組みの一つとして、2011年より岡崎市の市有林を借用し、人工林を本来の生態系に近づける「森づくり活動」を実施しています。海外事業体では、植樹活動を推進し、環境や生物多様性に対する活動を実施しています。



森づくり活動



インドでの植樹活動 (FMI)

自然共生社会に向けた社会貢献活動

各工場所在地の市町が開催する清掃活動へ積極的に参加し、地域における継続的な環境保護活動を実施しています。また、各工場・海外事業体では、定期的な工場周辺清掃活動を実施し、工場周辺の美化に寄与しています。国内子会社の(株)フタバ平泉が、世界文化遺産登録された史跡・名跡がある岩手県平泉町にあることから、町の清掃を実施することで、景観保持への貢献をしています。



平泉町清掃活動 (株)フタバ平泉



中国での清掃活動 (広州双叶自動車部品(有))

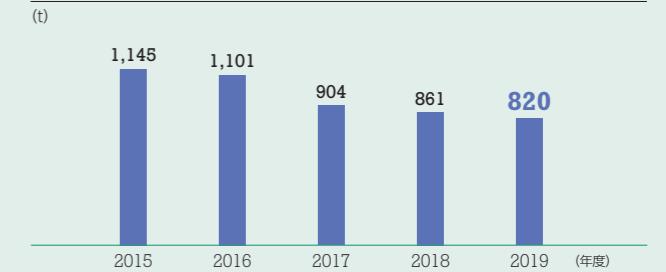
廃棄物削減・省資源の取り組み

限りある資源を有効に活用するために、廃棄物削減と水使用量の低減に積極的に取り組んでいます。

廃棄物排出量削減への取り組み

当社では、産業廃棄物量の削減と埋立廃棄物を低減する取り組みを推進しています。廃油やプラスチック、汚泥などの再資源化を進めています。

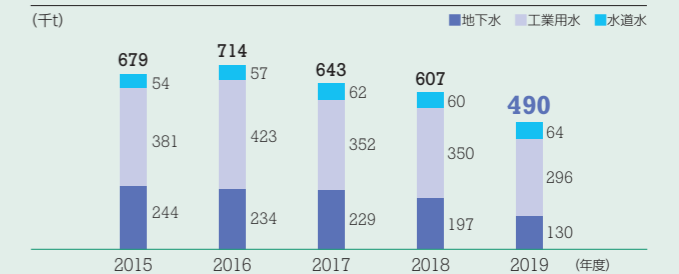
廃棄物排出量



水資源の有効活用

当社では、設備の冷却、製品の洗浄や気密性検査等で工業用水と地下水を使用していますが、各所に循環系統を構築し水資源の再利用に努めています。

水使用量



お客様との関わり

当社の経営理念である「お客様に信頼され、なくてはならない会社」という考えのもと、お客様からの信頼性向上のために品質向上活動に取り組んでいます。

基本的な考え方

当社では、仕事の基本となる品質保証規則を定め、お客様の信頼に応えられるよう日々改善サイクル（S-D-C-A）をまわし、プロセス重視で品質保証システムの改善を行うよう努めています。

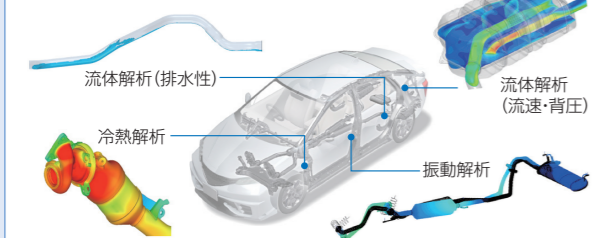
新製品の安全性と信頼性確保への取り組み

安全性と信頼性の高い新製品を開発するため、お客様と一体となった開発体制を構築しています。近年、お客様とは、試作車両を必要としないバーチャル開発を進めており、過去知見のデータベース化や標準作業のRPA化[※]などのITと組み合わせることで、高品質かつ高効率な開発を実現することが可能となります。

今後、既存商品だけでなく、持続可能な社会の実現に貢献できる電動化商品や新規事業開発を進めていきます。

※RPA (Robotic Process Automation)
… 人間のみが対応可能と想定されていた作業等を人間に代わってAI等が業務を代行・代替する取り組み

バーチャル開発イメージ図



また、TQMの考えに基づいた業務品質向上活動を通して当事者意識を持って、業務遂行できる人材を育成し、全社機能一体となって、品質保証体制の向上を進めています。

不具合の再発防止・未然防止への取り組み

TQM活動による業務品質改善や品質管理活動確認会、品質定例会等の活動を通して、お客様の期待にお応えできるよう日々活動を行っています。また、仕入先定例会を通して、不具合情報や困りごとの共有、改善事例紹介を実施し、品質向上に努めています。

また、年2回、品質保証本部長が各工場品質保証体制の総点検と指導を行います。点検を通して改善を行い、重要品質問題の未然防止に向け、体制作りと品質レベルの向上を目指しています。



品質管理活動確認会

お客様満足への取り組み

エンドユーザー様の満足度向上に向け企画段階からお客様と連携し、新しい技術への取り組み、量産課題から新しいモデルへの改善織り込み等協力して活動しています。

人材育成・職場づくりへの取り組み

製品化実現に必要な品質知識、製造工程や品質保証システムの監査スキルを身に付けるための教育を行っています。

品質保証規則を通して、自分たちの役割責任・仕事の意味の理解を深め、やりがいを高めています。



社内教育

主な表彰

お客様に当社の取り組みが高く評価され、幅広い分野で表彰されました。

トヨタ自動車株式会社 改善優秀賞
試作不具合0などの試作QCDパフォーマンス改善の取り組みが評価され、表彰を受けました。



トロフィーと感謝状

富士ゼロックス株式会社
プレミアムパートナー

品質、コスト、納期での貢献を評価され、9年連続9回目の「プレミアムパートナー2019」を受賞しました。



プレミアムパートナー2019

株主・投資家の皆様との関わり

適時、適正かつ公平な情報開示に努めるとともに、株主・投資家の皆様との良好なコミュニケーションを実施していきます。

基本的な考え方

当社では、投資判断に影響を与える決定事項、発生事実、決算に関する情報等が発生した場合の重要情報の開示については、金融商品取引法等の諸法令ならびに、東京証券取引所の定める規則に従って情報開示を行っています。

これらに該当しない場合でも、ステークホルダーの

皆様に影響を与えると思われる情報や当社を理解していただくために有用と考えられる情報については、当社独自の判断により自主的に開示しています。

また、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守し、未公表の重要事実を適切に管理し、公平な情報開示を行っています。

定時株主総会の開催

株主総会は、株主様と建設的な対話を行うことのできる貴重な場と考え、より多くの株主様に定時株主総会へご参加いただけるよう努めています。

また、議決権行使を円滑に行っていただけるようインターネットによる議決権行使の採用を行っています。



定時株主総会

投資家様とのコミュニケーション

当社では、毎年2回、機関投資家・アナリスト様向けに決算説明会を開催し、経営方針や成長戦略、業績の報告を行っています。

また、ご要望に応じて機関投資家・アナリスト様に対し施設見学を行っており、2019年には広州双叶(中国)の子会社を見学していただきました。

2019年度の主なIR活動

対象者	概要
国内機関投資家・証券アナリスト様	決算説明会
	個別取材／電話取材
	個別訪問
海外機関投資家様	施設見学会 (中国)
個人株主・個人投資家様	株主総会招集ご通知の発行・送付
	株主通信の発行・送付

株主還元に関する方針

当社では、株主の皆様の利益向上を経営の重要課題のひとつとし、利益配分につきましては、安定的な配当の維持を基本に、経営成績・配当性等を総合的に勘案し、株主の皆様のご期待に沿うよう努めていきます。

仕入先様との関わり

グローバル視点で、社会要請にも対応した最適調達活動を通じて、仕入先様との相互信頼を築き、共に成長・発展していくことを目指します。

基本的な考え方

1. オープンでフェアな最適調達

仕入先様選定は、品質、コスト、技術力、納期面、SE力での期待値を明確にして、その達成成果を正しく評価しています。新規ビジネスは、常にオープンとし、経営状況、反社会性、環境への取り組み等も考慮し総合的に検討ならびに公平に判断しています。

2. 相互信頼に基づく継続的取引

長期的な取引を前提として、相互協力・協働、率直な双方向コミュニケーションをはかり、信頼に基づく互恵的関係の構築を目指しています。将来に向けて、サプライチェーン全体として、競争力向上を推進します。

3. グローバル視点と地域最適調達のベストマッチ

お客様の生産ロケーション、新技術/工法に対応した最適なモノづくりに貢献するために、グローバルで競争力のある調達基盤を追求します。また現地仕入先様を積極的に活用し、地域社会への貢献に努めています。

仕入先様との信頼関係の構築

仕入先様とのコミュニケーション活動

方針説明会、優秀仕入先様表彰等を通じて、サプライチェーン全体での重点課題や活動を共有し、相互理解・協働やシナジー効果をはかりながら課題解決遂行や中長期的な信頼関係構築を目指します。

フタバ協会活動

勉強会、QCサークル大会、部会活動や次期経営者会等を通じて、協会全体でのレベルアップならびに組織と個人の能力向上と成長を目指します。

人材育成活動

仕入先様へ集合教育を提供し、フタバチームとして共に成長し続けます。また、品質等の課題への取り組みをサポートするよう品質支援、体制強化活動を行っています。



方針説明会



フタバ協会サークル発表会



フタバ協会講演会



フタバ協最終報告会

サプライチェーンのリスクマネジメント/BCP活動

有事の際は、仕入先様も含めフタバグループ全体での迅速な初動・復旧を確実に遂行できるよう取り組んでいます。仕入先様との安否確認や稼働確認についても協力を得ながら、管理システムにてタイムリーに行っています。ガイドラインに沿った仕入先様のBCPの立案を推進し、継続的なしくみの改善をサポートして参ります。

持続可能なサプライチェーンの構築

グリーン調達やCSRガイドラインを仕入先様へ展開し、地域社会への貢献と共生ならびに持続可能なサプライチェーンの構築と相互成長を目指します。

(1) 環境

「グリーン調達ガイドライン」等の当社の環境方針を基に、法令順守・環境マネジメントシステムの構築・環境負荷低減活動等を推進し、環境にやさしい持続可能なサプライチェーンの実現に向け取り組んでいます。

(2) 社会への貢献と共生

「仕入先CSRガイドライン」にて、仕入先様への期待を明確にお伝えしながら、相互理解と信頼関係を基に仕入先様とともにCSRを重視した事業活動を推進しています。

地域社会との関わり

地域社会との積極的なコミュニケーションを通じて、社会貢献活動をステップアップしていきます。

基本的な考え方

当社の社会貢献に関する基本的な考え方は、「地域社会から広く支持され、愛される会社」という経営理念のもと、「環境保全」「地域活動」「青少年育成」「地域福祉」を重点活動分野とし、積極的に社会貢献活動の展開を行っています。

フタバグループの活動事例

高齢者を対象とした交通安全教室の実施

日本 | 本社

岡崎市や岡崎警察署の協力を得て、シミュレーターを使用した交通安全教室を実施しています。



高齢者交通安全教室

「こうた風揚げまつり」への協賛

日本 | 幸田工場

「こうた風揚げまつり」(愛知県額田郡幸田町)の屋台村に初出店し、参加した従業員は、地域住民の方と交流を深めました。



幸田工場出店の豚汁の屋台

工業高校生を対象とした実習体験の実施

日本 | 高橋工場

地元の工業高校生を対象に、CAD/CAMによる3D加工データの作成から素材を加工するまでのものづくりの実践体験を実施しています。



工業高校生を対象とした実習体験

授産製品の購入斡旋

日本 | ㈱フタバ総合サービス

知的障がい者グループホームの商品を売店で販売しています。売り上げに貢献することで、NPOの運営支援を行っています。



売店での授産製品の販売

元受刑者へ雇用機会の付与

チェコ | フタバチェコ(株)

FCZは、元受刑者たちへ第二のチャンスを与えるための支援を行う「Yellow Ribbon Run」に2017年から支援しており、これまでに約80名の方へ雇用の機会を与えました。



Yellow Ribbon Run

断食後に食事の提供を実施

インドネシア | ㈱フタバインドネシア

FIIは、断食明けの「Buka Puasa」[※]で近隣の恵まれない子どもたちを招待し、食事を振舞っています。

※Buka Puasa…インドネシアにおいて断食後の夕食のこと



子どもたちへの食事の提供

トピックス

フタバ産業軟式野球部

フタバ産業軟式野球部は、1982年に創部。2019年度は、3度県大会で優勝、全国大会でベスト8に入るなど、着実に力をつけ国内で活躍の場を広げています。また、選手たちによる少年野球教室等地域活動に積極的に取り組み、「地域に応援してもらえる野球部」を目指し活動に励んでいます。



「天皇賜杯全国大会」ベスト8



第3回フタバ少年野球教室

従業員との関わり

従業員の人格、個性を尊重し、安全で働きやすい環境を確保するとともに
従業員のゆとりと豊かさの実現に努めます。

安全第一の職場づくり

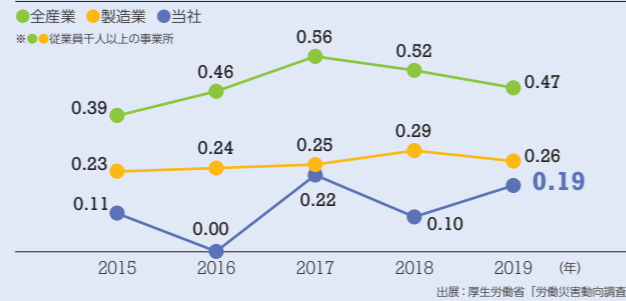
安全と健康に対する基本的な考え方

従業員一人ひとりの安全と健康を貴重な財産、経営資源ととらえ、「安全はすべてに優先する」という考えのもと従業員の人格、個性を尊重し、安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、従業員の心のゆとりと豊かさの実現に取り組んでいます。

安全に対する教育

当社では、「災害はゼロにできる」という考えのもと、ゼロ災害職場づくりに向けて安全教育を行い、「基本の徹底」を実施しています。主な教育および活動としては、新任職制に向けた階層別安全教育、e-ラーニングによる安全意識向上活動を全社で実施しています。

労働災害発生頻度（休業度数率）



安全教育の実施

従業員のための健康への取り組み

衛生における3管理（健康管理、作業管理、環境管理）を重点活動とし、定期健康診断100%実施、産業医の就業判定後に受診勧奨が必要な方への事後措置を実施しています。健康保持増進では、10月の衛生月間活動の一環として「からだいきいきキャンペーン」を実施し、

生活習慣の見直しの機会としています。また、従業員にメンタルヘルス教育やストレスチェックの実施等、メンタル不調の未然防止および再発防止に努めています。定期的な衛生コンサルタントによる指導を基に、職場作業および環境改善にも取り組んでいます。



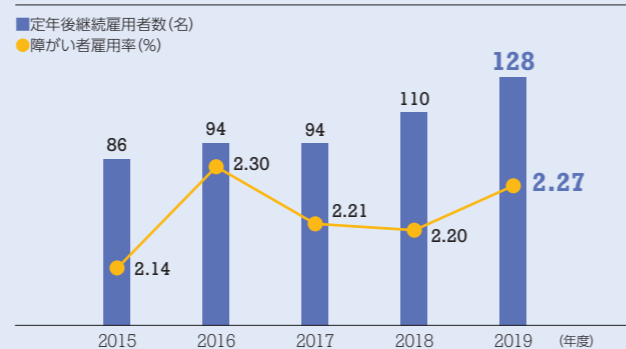
全社安全衛生委員会

多様な人材の活用

グローバルに活動していく中で、多様な人材が活躍できる社内環境整備を行っています。採用活動では、大卒採用者に占める女性割合20%以上を目標とする等、国籍、性別を問わず優秀な人材を採用しています。

また、障がい者の自立と社会参加を支援するため、積極的な雇用に取り組む、2019年度の雇用率は2.27%となり、法定雇用率を上回る雇用率に達しました。定年後再雇用者については、継続雇用年齢の引き上げ等の施策を検討しています。

定年後継続雇用者数と障がい者雇用率



人材育成への取り組み

従業員の一人ひとりの成長が企業の発展につながるという考えのもと、「当事者意識を持って業務遂行できるグローバル人材の育成」ならびに「個々の従業員が能力を最大限に発揮できる人材育成」に取り組んでいます。その

ために、階層別教育・機能別教育・職場別教育を実施するとともに、「ものづくり研修センター*」にて、ものづくりに強い人づくり、職場づくりや固有技能に卓越した匠の育成を目指しています。

*ものづくり研修センター…当社内にある安全や品質、コア技術等を教育する場所

教育体系図（研修体系図）

資格	階層別	機能別	自己啓発
主幹職	課長マネジメント研修	海外赴任前研修 選抜型英語力強化研修 外部研修・講演・他 制度（海外）	語学学習 定期的なTOEICの開催 通信教育
	新任課長研修		
係長級	係長級研修	海外赴任前研修 選抜型英語力強化研修 外部研修・講演・他 制度（海外）	語学学習 定期的なTOEICの開催 通信教育
	問題解決型業務改善研修（アドバイザー）		
一般	問題解決型業務改善研修（基礎・応用）	海外赴任前研修 選抜型英語力強化研修 外部研修・講演・他 制度（海外）	語学学習 定期的なTOEICの開催 通信教育
	4年目研修		
新入社員	新入社員研修、ものづくり研修、新入社員フォロー研修	海外赴任前研修 選抜型英語力強化研修 外部研修・講演・他 制度（海外）	語学学習 定期的なTOEICの開催 通信教育

フタバ技能大会の開催

技能職人材育成の一環として「フタバ技能大会」を開催しています。グループ会社も含め、毎年約60名の選手が、板金・溶接・電気・検査の4競技で、工場大会を勝ち抜き、全社大会で技能を競い合います。



アーク溶接技能を競い合う



板金技能を競い合う

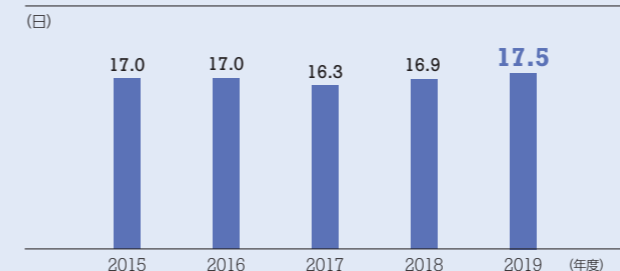
ワークライフバランスへの取り組み

当社では、多様で柔軟な働き方・効率的な働き方を目指して、従業員のワークライフバランス向上を推進しています。

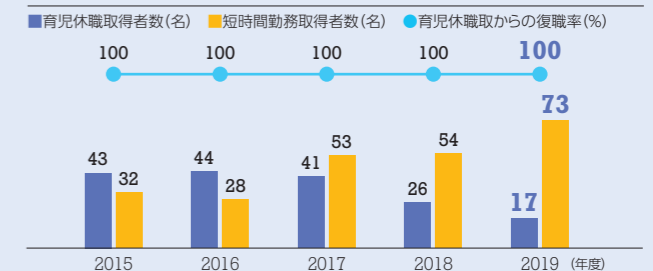
取り組みならびに制度事例

取り組み	制度事例
年次有給休暇の取得推進	年次有給休暇取得目標16日達成（2020年度目標17日） リフレッシュ休暇（勤続の節目で5日の連続取得可能）、3日連続年休取得（毎年可能）
総労働時間の短縮	毎週水曜日を「ノー残業デー」とし、定時退社を推進
育児支援	育児休職（子が満2歳まで）、育児短時間勤務（子が小学4年を修了するまで）、時間外労働の制限（子が小学校就学前まで）、子の看護休暇（年5日、最大年10日）
介護支援	介護休職（365日以内、取得回数3回まで）、介護短時間勤務制度（利用開始から3年間、取得回数制限なし）

年次有給休暇所得日数（平均）



育児支援制度利用率



財務サマリー (連結)

	(年度)	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
経営成績												
売上高		376,323	373,458	372,083	365,246	399,378	422,874	437,640	412,383	440,446	461,705	476,165
営業利益又は営業損失 (△)		3,183	11,885	2,630	△360	2,784	4,367	3,121	8,976	11,258	6,797	10,621
経常利益又は経常損失 (△)		△399	8,483	335	△2,163	2,073	2,116	636	7,542	10,955	6,449	9,968
税引前利益【税金等調整前当期純利益又は当期純損失(△)】		△2,841	6,879	△1,234	△4,264	7,020	2,116	533	5,619	6,380	6,158	10,340
親会社株主に帰属する当期純利益又は当期純損失 (△)		△565	3,346	△4,747	△5,067	2,954	1,039	△1,195	4,806	10,721	3,509	6,357
設備投資額		30,106	15,188	13,382	16,667	21,474	20,480	26,514	16,330	20,252	41,347	27,385
減価償却費		30,414	25,456	21,891	20,093	20,167	20,318	24,152	21,073	20,515	23,078	24,497
研究開発費		1,953	2,130	2,214	2,162	2,586	2,940	3,079	3,235	3,367	3,494	3,443
純資産		50,459	51,542	48,175	49,691	57,600	66,914	56,179	67,029	75,691	75,211	76,488
総資産		257,205	216,966	221,579	225,314	237,019	255,311	233,303	242,311	253,362	249,061	253,517
有利子負債		114,800	90,900	87,000	96,100	91,200	95,000	90,700	84,600	81,300	84,900	82,300
												(単位: 百万円)
1株当たり情報												
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額 (△)		△8.09	47.84	△67.86	△72.44	42.24	14.86	△17.09	65.76	119.82	39.22	71.03
1株当たり純資産額		544.42	544.30	511.42	520.77	595.74	720.87	593.39	607.17	731.50	734.90	753.80
配当金		0.00	3.00	0.00	0.00	3.00	3.00	3.00	3.00	10.00	10.00	10.00
配当性向 (%)		—	6.3	—	—	7.1	20.2	—	4.6	8.3	25.5	14.1
												(単位: 百万円)
キャッシュ・フロー												
営業活動によるキャッシュ・フロー		51,429	33,270	17,932	14,861	23,266	25,780	22,751	26,178	24,960	25,410	34,020
投資活動によるキャッシュ・フロー		△20,281	△14,990	△14,787	△18,987	△13,235	△31,451	△20,333	△20,902	△27,081	△30,961	△26,443
財務活動によるキャッシュ・フロー		△23,956	△20,596	△3,460	3,682	△10,702	1,017	△3,612	3,262	△6,304	1,489	△5,572
現金及び現金同等物の期末残高		20,015	16,517	16,500	17,932	20,237	14,576	13,121	20,581	11,960	7,541	9,370
												(単位: 百万円)
財務指標												
営業利益率 (%)		0.8	3.2	0.7	△0.1	0.7	1.0	0.7	2.2	2.6	1.5	2.2
自己資本比率 (%)		14.8	17.5	16.1	16.2	17.6	19.8	17.8	22.4	25.8	26.4	26.6
ROE【自己資本利益率】 (%)		△1.5	8.8	△12.9	△14.0	7.6	2.3	△2.6	10.0	17.9	5.3	9.5
ROA【総資産当期純利益率】 (%)		0.2	1.50	△2.1	△2.2	1.2	0.4	△0.5	2.0	4.2	1.4	2.5